

学校訪問のまとめ（訪問校に共通した取組、成果と課題）

1 生徒に係る事項

- ・ 中学からの進学者（内進生）がリーダー性を発揮している。また学習に取り組む姿勢として探究心が育っている。
- ・ 中高一貫のメリットを生かすため、中学生と高校生が同じ空間を共有している。
- ・ 中学入学時から授業に取り組む姿勢を確立することを大切にしている。
- ・ 部活動において中学生と高校生の発達段階が配慮されている。
- ・ 中学校の3年間で内進生（中学からの進学者）に学力差が生じる。
- ★中学1年時から授業に取り組む基本姿勢を育成する必要がある。
- ★生じた学力差に対応する仕組みを構築して学力を保証する必要がある。
- ★中学生と高校生の発達段階の差に配慮する必要がある。

2 学校・職員に係る事項

- ・ 学校としての方向性、ビジョンを明確にし、校風を生かしている。
- ・ 学校の目玉となる教科や取組がある。
- ・ 進学実績が向上している。
- ・ 中高の職員の情報交換や交流に配慮し、職員室を共有している。
- ・ 高校の教員が地域の小学生や中学生の実情を知ることが必要。
- ・ 職員会議を合同で行っている。
- ★学校の方針（どのような生徒を育成するか）を明確にする必要がある。
- ★6年間を見通した生徒育成のシステムを構築する必要がある。
- ★地域の小中学校を見学したり交流したりして実情を知る必要がある。
- ★中高の職員の意思疎通を図り学校が一丸となった学校運営を行う必要がある。
- ★カリキュラムや学校独自科目の設置等の根幹部分を早めに練り上げる必要がある。
- ★小学校、中学校、塾などに早くから学校説明会を行うことは必要である。

3 施設に係る事項

- ・ 従来の高校の校舎を活用している学校が多い。ただし、教育課程上高校にない「技術」などの教科に対応した技術室などの特別教室は新設されている。
- ★現存の建物を利用する場合、増設する施設とその配置場所、改装を要する部分などを明確にする必要がある。
- ★部活動の活動場所も確保する必要がある。